

【多摩丘陵・私の出会った生き物たち 2】

< 蛙たちの夜 >

桑原紀子

もう10年も前のことですが、2月半ばのある日、雑木林の道を下っていると、下の田んぼから「キャララ、キャララ」という不思議な声が響いてきました。沢山の水鳥が鳴き叫んでいる様な声。下りてみると、雨水の溜まった山間の田んぼが広がっていて、生き物の姿はありません。声も止んでいます。

(きっと蛙の産卵だ)知識では知っていましたが、現場に出会ったことはありません、夜になって、再びその田んぼを訪れてみました。

声の主はヤマアカガエルでした。田んぼに隣接した里山の落ち葉の下で冬眠し、今頃になるとまず雄が目を覚まし、水の溜まった田んぼの泥に潜って、一斉に鳴いて雄を呼びます。

「キャララ」の声の響く田んぼの隅でじっと待っていると、8時を過ぎた頃、雌が山の斜面をドサッドサッと下りて来ました。雄よりひとまわりの大きさです。泥に潜っていた雄たちも姿を現し、両方の頬にある鳴のうを大きく膨らませ

て激しく鳴いています。雌が田んぼに跳んで入ると、次の瞬間には雄が雌の背中におんぶの格好で抱きつきました。しばらくしてそのまま雌は産卵を始めました。雌の数が少ないので、あぶれた雄は恋の衝動に突き動かされて、見境なく雄の背中にしがみついたり、蛙をそっと歩く私の足音にまで反応して近寄ってきます。

産卵は生き物にとって、命をかけた危険な時間です。近くでフクロウが鳴き、蛙の泥に狸やいたちの足跡がくっきりとついていました。こんなに沢山集まったご馳走を見逃すはずがないのです。

無事産卵を終えた蛙たちは、再び山の落ち葉の下に戻り、春眠と呼ばれる眠りに入ります。

2月から3月にかけてやわらかい雨の降る夜などは、蛙たちの命の営みを思って、私も優しい気持ちになるのです。